

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		11 04 04	中期総合計画主要施策番号		5-09	担当課	部・課	建設部 道路建設課	
事業名		道路計画調査事業				内線	3421		
						E-mail	michiken@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	・長野自動車道などの高規格道路網と一体となって高速交通体系を築き、松本地域と糸魚川地域の交流促進・連携強化を図る道路として位置付けている地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」の早期事業化に向け、調査検討を推進する。 ・また騒音や交通安全等の対策実施が喫緊の課題となっている小谷村雨中地区のバイパス等ルートの検討を実施する。							
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] ・松本糸魚川連絡道路の起点を含めたルート全体のあり方について、県方針の決定に至っていない状況となっている。							
		[原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] ・起点の位置については、地域住民から賛否様々な意見をいただいております、道路整備が与える地域や環境への影響を含め、地域の合意形成が困難な状況である。 ・小谷村雨中地区については、これまでの調査結果から、トンネルの施工が困難な地質であることが判明し、当初のトンネルルート案では実現性に欠けると判断されている。							
		[課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] ・起点を含めたルート全体のあり方について、県としての考えを取りまとめ、早期にルート案の公表を行う。 ・小谷村雨中地区については、明かりを主体としたルート案を検討する。							
	事業内容	・松本糸魚川連絡道路全体のルート案の公表を行うとともに、関係機関との検討協議等に必要な概略検討を実施する。 ・雨中地区については、実現可能なルートの検討を改めて行う。 (補助率 1 / 3)							
実施期間	H15 ~	根拠法令等	道路整備五箇年計画、全国総合開発計画、広域道路整備基本計画、地域高規格道路の指定						
成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
	地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」早期事業化に向けた調査・検討を推進する。		・松本糸魚川連絡道路の起点を含めたルート全体のあり方を示す。 ・雨中地区における、実現可能なルート案を検討する。			・10月に県が一番有利と評価するルート案を公表するとともに、パブリックコメントを実施し、意見の約8割が県案支持の結果を得た。 ・雨中地区については、原案を縮小したルートの検討を行った。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要		
	最終予算額 (A)		千円	22,850	18,000	23,250	国庫・県単	国庫・県単	
	決 算 額 (B)		千円	22,850	18,000		実施方法	委託	
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	15,233	12,000	15,500	歳出節別内訳等	委託料 18,000	
	概 算 人件費	従事する職員数	人	0.80	0.80	0.80			
概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	28,562	23,719	28,969	(単位: 千円)			
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績		
	松本糸魚川連絡道路全体の整備方針策定		式	ルート調査	基礎調査	路線概略検討			
	雨中地区の整備方針策定		式	地質調査	路線概略検討	ルート案の地元説明・協議			
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明						
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判定の説明	・地域間連携や騒音問題及び、交通の安全面からも依然として非常にニーズが高い。 ・国道148号等は県管理道路である。 ・対策事業の実施に向けた調査検討にあたり、既存文献等も活用し、引き続き有効性かつ効率性に努める。		
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり				
課題の総括		・松本糸魚川連絡道路は、地域間の交流や連携を促進するための主要な取組であり、必要性は高い。地域問題の早期解決に向けても必要性は高く、引き続き調査を行う必要がある。							